

コラム

皮膚がんについて

皮膚の異常は内臓と違って目で見て分かりますので、皮膚がんは早期に自分で発見できる可能性が高いといえます。強烈な太陽光線（紫外線）を浴びすぎたり、放射線の大量被ばくが、皮膚がんを引き起こすことが知られています。新しく皮膚にできたものや、今まであったものが急速に変化してきた時には、自己流で治療しようとしたりせずに、早めに皮膚科で診察を受けることが大切です。



胃がん・肺がん検診車

のどちらか一方を選択して受診できます。子宮がん・大腸がん・前立腺がん検診、肝炎ウイルス検診は、集団検診または個別検診のどちらか一方を選択して受診してください。

がん検診を受けた後は

がん検診は受けた後が大切です。集団検診の場合は、受診から約1か月後にご検診の結果が郵送されます。必ず開封し、結果を確認してください。個別検診の場合は、受診した医療機関で、検診の結果を必ずご確認ください。

「要精密検査」と診断された方は、速やかに精密検査を受けることをお勧めします。「要精密検査」と診断された場合、「がんの疑いを含め、異常（病気）があるかもしれない」と判断されたということです。がんかもしれないと不安を抱えながら毎日を過ごすのではなく、異常がないかどうかを確かめたい。

久喜市のがん統計（平成22年度 人口動態統計年報結果表より）

●死因順位別にみた死亡総数に占める割合

- 第1位 悪性新生物（がん） 31.7%
- 第2位 心疾患 17.1%
- 第3位 肺炎 10.5%

●悪性新生物（がん）の部位別死亡順位

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	肝臓	胆のう
女性	肺	大腸	胃	乳房	膵臓・白血病
男女計	肺	胃	大腸	肝臓・胆のう	膵臓

認し、必要があるなら早期に治療を開始するためにも、早急に精密検査を受けましょう。また、異常がなかった方も引き続き必要な間隔で、がん検診を継続して受診することが大切です。

なお、精密検査の受診の有無や結果について、保健センターから電話などでご連絡させていただくことがあります。

7条 適度に運動



8条 適切な体重維持



9条 ウイルスや細菌の感染予防と治療

10条 定期的ながん検診を

身体の異常に気がいたら、すぐに受診を

正しいがん情報でがんを知ることから

12条



（出典 財がん研究振興財団）